

(別紙－2－②)

令和 7 年 6 月 16 日

倫理委員会委員長
山西 千晶 様

研究倫理審査申請書

下記の内容の研究および発表を取り組むために、倫理委員会での審査をお願いいたします。

【受付番号 R7-14 】

申 請 日	令和 7 年 6 月 16 日	
申請者 (実施責任者)	氏名	上野 由美子 印
	所属	外来
	職名	看護師長
所属長	氏名	印
研究テーマ	排尿ケアチームの活動報告 別紙添付	
発表先	学会報告	第 50 回日本重症心身障害学会学術集会 2025 年 11 月 21 日(金)、22 日(土) 口演
	誌上発表	単 著 ・ 共 著 (出版誌名) (論文タイトル)
その他		

排尿ケアチームの活動報告:重症児(者)の QOL 向上を目指して

枚方総合発達医療センター

上野 由美子

はじめに

重症心身障害児（以下、重症児（者））は、長期臥床や側弯により排尿障害や尿路感染症のリスクが高い。2020 年度診療報酬改定で「排尿自立支援加算」が新設され、包括的な排尿ケアの提供が可能となった。しかし、重症心身障害者施設での実施報告は少ない。本施設では QOL 向上を目的に排尿ケアチームを立ち上げ、尿道留置カテーテルの抜去や尿閉・残尿への対応を通じ、排尿ケアの質向上を図った。本報告では、チームの活動内容と現状を述べる。

方法

対象は 202X 年 1 月～202Y 年 6 月（3 年 5 か月）に泌尿器科医の診察を受けた入所者とし、診療録を後方視的に調査。年齢・性別・診療計画・排尿日誌を分析し、各病棟のリンクナースへ活動アンケートを実施してチームの運営状況を評価した。

結果

排尿ケアチームは泌尿器科医・看護師・薬剤師・理学療法士の多職種で構成し、排尿ケアマニュアルを作成。各病棟にリンクナースを 1～3 名配置し、2 か月ごとに委員会を開催。委員会では、尿道留置カテーテル抜去フローシートや排尿日誌の記載方法、残尿測定器（ブラッドースキャン）の使用方法などを伝達し、各病棟の症例報告をおこなった。

尿道留置カテーテル抜去介入者 34 名のうち、28 名（82%）は抜去成功、6 名（18%）は再挿入となった。抜去後は定期回診で CIC の有無や回数調整を行い、4 か月以降も超音波検査などを用いた定期フォローを継続した。尿閉・血尿・結石への対応も排尿ケアチームが計画・実施した。

まとめ

重症児（者）は運動・感覚機能障害により排尿困難を抱えることが多い。残尿は膀胱内沈殿物堆積・結石形成・上部尿路拡張・有熱性尿路感染症のリスクを伴う。対応策として体位変換、車椅子乗車時間増加、定期的清潔間欠導尿（CIC）、膀胱洗浄が有効だが、個々の症例に応じた対応が必要である。また、定期的な診察は異常の早期発見につながる。